

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 作品の世界を想像しながら読み考えたことを伝え合おう
 やまなし
 イーハトーブの夢

2 単元の目標

- 比喩や反復などの表現に気付くことができる。 (知識及び技能 (1)ク)
- 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
 (思考力、判断力、表現力等 C(1)エ)
- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。
 (知識及び技能(1)カ)
- 粘り強く、物語の全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりし、学習の見通しを持って作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとすることができる。
 (学びに向かう力、人間性)

3 評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ) ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。 ((1)ク) 	「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (C(1)エ)	粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。

4 解説文の評価基準 (ルーブリック：児童と作成する)

	表現・構成	作者の思い
S	2つの場面对比させながら、優れた表現や構成の工夫について解説文を書いている。	宮沢賢治の人生に起こった出来事を自分なりに年表等で分かりやすく整理したり、他の作品を読んだりして、生き方と本文の表現などを関連付けて読んでいる。
A	着目した点を明確にしながら、優れた表現や構成の工夫を見つけ、解説文を書いている。	宮沢賢治の人生に起こった出来事と本文の表現などを関連付けて読んでいる。
B	優れた表現を見つけ、物語の場面を想像して解説文を書いている。	イーハトーブの夢を読み、宮沢賢治の人生について考えようとしている。

5 単元について

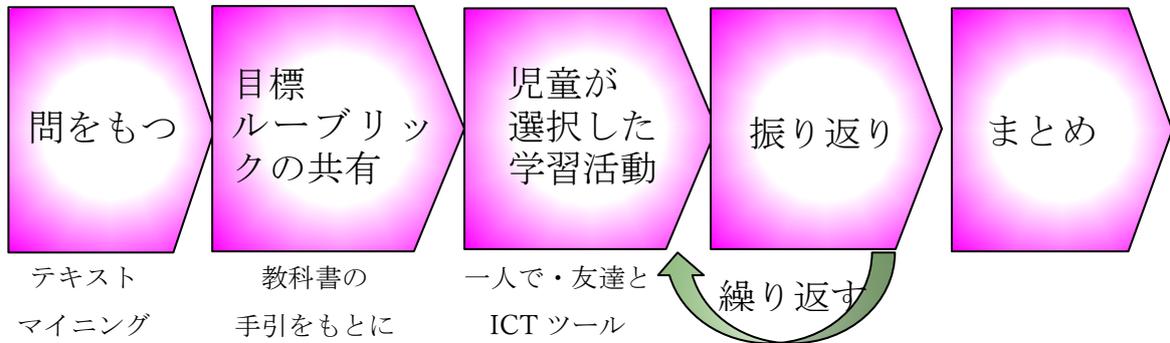
児童は『たずね人（5年生）』で中心となる人物が会う人や物の役割を考えるなどして物語の全体像を想像する学習をしている。また、『やなせたかし-アンパンマンの勇気-（5年生）』では伝記を読み、時系列に整理したり、出来事と作者の思いを関連付けて読む学習をしてきた。さらに、『大造じいさんとがん（5年生）』や『帰り道（6年生）』では視点によって変わる見方があることや、情景描写について学んだ。本単元『作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう』では、宮沢賢治の『やまなし』を「5月」「12月」の2枚の幻灯を比較させながら、構成、表現の面から作品世界を捉えさせるとともに、『資料 イーハトーブの夢』を読むことで、作者の生き方や考え方について考える教材である。日頃手に取らない宮沢賢治の作品の独特な描写に難解さを覚え、取り組みにくく感じる児童がいることが予想される。そこで、作者の生き方をふまえて作品世界を捉えることを目指し、本単元では二つの手立てを講じる。

一つ目は、問いをもととするための手立てである。児童が普段選ぶ本や、学習の様子を見ると、初読の感想で難しく感じ、読み進める上での問い自体をもつことが難しいことが予想される。児童からは「クラムボンの正体は何か」「宮沢賢治はこの話で何を伝えたいのか」「宮沢賢治の人生とこの作品はどのように関わっているのか」「5月と12月の違いは何か」「この表現はどんな情景を表しているのか、優れた情景描写について調べたい」「宮沢賢治は他にどんな作品を書いているのか」などの問いが出てくることが予想される。ここで生まれる問いは、おそらく主題に迫るものは少なく、難解に感じる物語への純粋な疑問が多いと思われる。しかし、自分もった問いに向かって学習を進めていくことで、ただ読むだけではなく、深く読み進めていこうという意欲に繋がり、その学習活動を通して作者の生き方や考え方と関連付けながら、深く読み進めていけると考える。そこで、「分からない」という児童の思いを尊重し、「同じように読んだあとに疑問をもった人の手助けになるようなレポートを作る」という目的を児童にもたせたい。レポートの巻末には自分が考察した内容を記載する。その作品作りを通して児童が主体的に『やまなし』を読み深め、『イーハトーブの夢』と関連付けて読むことで作者の思いや人生と照らし合わせながら考えさせたい。

二つ目は、本学級で昨年度より取り入れているプロジェクト型の学習（注1）の形を取り入れて学習を進めていくことである。本学級で取り組むプロジェクト型の学習とは、自立した学習者を目指し、児童自身が目標に向かって主体的、協働的に学ぶ学習のことを指す。国語科では、目標を設定し、ルーブリックを全体で作成し、活動内容を児童それぞれが決め、活動後に振り返る、という活動を繰り返し、目標に迫っていく。この学習は絵本にしたり、作品を作ったり、考察を書いたり形式は児童主体で自由である。しかし、その活動のゴールとして「作者が作品に込めた思いは何か」という主題に向かって学習することを意識付けていくことが必要である。そこで、児童自身が活動を振り返りながら学習するための指針として、ルーブリックを作成する。ルーブリックをもとに各自が学習計画を立て、友達と協働的に学び合いながら毎時間自分の学習を自己評価し、振り返る。その際、ギガタブで気づきメモや友達の作品を共有できるような場を設定し、互いに学び合える環境を用意するようにする。作品の捉え方が難しく感じる児童にとってのつまずきの支援となるようにする。また、進行状況が見えるよう共有設定をすることで、児童の進捗状況を教師が把握しやすい状況を作り、形成的評価を行いながら助言等の支援をしたいと考える。

【注1 本学級におけるプロジェクト型学習の定義】

一般的なプロジェクト型学習は「Project Based Learning」の略で、プロジェクト型学習、課題解決型学習と呼ばれることもある。本学級では、首藤久義先生が提唱するプロジェクト学習をアレンジした下記のような学習活動を示すものとしている。従来の課題解決型学習の過程に ICT を活用し、友達と協働的に学び合ったり、一人で学びを深めたりと学習の方法は自由なものとする。



6 指導計画（全8時間）

次	時間	学習活動	指導や支援の手立て	評価基準と評価方法
0		0 学級文庫にある宮沢賢治の本を読み進める。	○学校図書館にある宮沢賢治の本を揃え、児童が手に取りやすいよう学級文庫を整理して置いておく。	
1	1	1 「やまなし」の作品世界を捉え、初発の感想を分析する。 ・P111を見て、物語の内容を想像する。 ・「イーハトーブの夢」から読み進め、どのように学習を進めていきたいか考える。 ・資料「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を伝え合う。 ・初発の感想をテキストマイニングで分析する。	○「作者が作品に込めた思い」のやまなしレポート集を作ることを学習のゴールに設定するよう促す。 ○全体の見通しをたて、配当時間や学習に使う ICT ツールについて説明する。 ○「やまなし」「イーハトーブの夢」の初読の感想を書き、テキストマイニングで分析をし、提示する。 ○共通した疑問やテーマをもとに自分なりのテーマを設定するよう促す。	・2つの場面のそれぞれの印象や特徴を捉えている。(発言・ドキュメント) ・『イーハトーブの夢』と『やまなし』を関連付けて読もうとしている。(ドキュメント)
	1	2 学習計画を立てる。 ・「やまなし」を読み、「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・ルーブリックを作り、自分なりの目標を設定する。 ・どの ICT ツールを使うかどんな方法でまとめていくか考える。	○前時のテキストマイニングでの分析を提示し、どのように学習を進めていけばよいか考えさせる。 ○ルーブリックをもとに学習計画を立てるよう助言する。 ○オクリンク、Google スライド、ドキュメント、ノート、大きい紙など自由に選んで良いことを確認する。	・学習の見通しをもって学習計画を立てている。(ノート)

	2 本時 1/2	<p>3 「やまなし」の作品世界を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の問い、テーマに沿って学習を進める。 ・作者の独特な表現に着目し、心を引かれる表現から情景を豊かに想像する。 ・かにかの様子、水や光の様子、上から来たものについて、「五月」と「十二月」の場面で使われている言葉に着目して対比する。 ・作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。 ・作者の思いがどのように作品の中に現れているか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気づきメモのグループワークを設定し、互いに助言し合える場を設定する。 ○それぞれの ICT ツールで作品を作ることができるが、最終的にはドキュメントでやまなしレポート集を作ることを確認する。 ○作品づくりの根拠となる文章中の言葉には傍線を引くよう促す。 ○学習の進捗を確認しながら、必要な助言をする。 ○イラストで表現したい児童には、本文中にある言葉を根拠とすることを確認する。 ○問いは読み進める中で変化したり、更新したりしてよいことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト型の学習を通してプロジェクト型の学習を通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできている。
2	2	<p>4 作者が作品に込めた思いを考えドキュメントにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P133「考えをまとめるとき」を参考に、自分の考えを文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が作った作品から考えたことをもとに書くことで説得力が増すことを意識させる。 ○自分の主張を書く際には、既習事項(『時計の時間と心の時間』)である主張と事例の関係が分かるように書くことを助言する。 ○必要であれば自分の作品のキャプチャを貼り付けてもよいことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者が作品に込めた思いをふまえ、ドキュメントにやまなしレポート文として書いている。(ドキュメント)
	1	<p>5 友達の書いたレポートを読み、コメントを書き合う。書かれたコメントをもとに推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・google ドキュメントのコメント機能を活用して読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ループリックをもとにしたコメントを書くことを確認する。 ○コメントや、友達の作品をもとに推敲し、さらに良い解説文にできるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックやコメント、友達の作品をもとに、よりよい作品にしようと推敲している。(ドキュメント)

3	1	<p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力について振り返りを書く。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつとともに、P266「物語の世界を作る表現」で表現や構成に着目して本を読むことへの意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を通しての振り返りには、自分の学習に向かう態度についても書くよう助言する。 ○今後の読書活動に生かしていくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、これからの読書活動に生かそうとしている。(ドキュメント)
---	---	---	--	---

7 本時の指導（3／8）

(1) 目標 プロジェクト型の学習を通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等 C(1)エ)

(2) 展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◇評価
5分	1 前時までの学習を振り返り、学習計画を確認する。 ・ルーブリックと、自分の計画を照らし合わせ、本時の学習活動についてイメージする。	○ギガタブで保存していたルーブリックと学習計画をテレビに写し、本時の学習内容を周知する。
5分	2 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">宮沢賢治が『やまなし』に込めた思いを想像しながら本文を読み進めよう。</div> ・本文のどこに着目して読み進めているのかを教科書に書き込む。 ・書き抜いたり、引用したりする方法を既習事項から振り返る。	○イーハトーブの夢と関連付けて読み進めることが有効であることを確認する。 ○それぞれの学習方法、使う ICT ツールが決まっているかを確認し、決まらない児童がいた際には助言したり、友達と協働的に学び合ってもよいことを確認する。
10分	3 学習計画に沿って学習を進める。 ・分析する部分を音読する。 ・「クラムボンの正体は何か」 ・「宮沢賢治はこの話で何を伝えたいのか」 ・「宮沢賢治の人生とこの作品はどのように関わっているのか」 ・「5月と12月の違いは何か」 ・「この表現はどんな情景を表しているのか、優れた情景描写について調べたい」 ・「宮沢賢治は他にどんな作品を書いているのか」	○気づきメモのグループを設定し、意見共有する場を設定する。 ○それぞれの ICT ツールで作品を作ることができるが、最終的にはドキュメントでレポート集を作ることを確認する。 ○作品づくりの根拠となる文章中の言葉には傍線を引くよう促す。 ○手が止まりがちな児童には、違う活動に変更しても良いことを伝える。 ○学習の進捗を確認しながら、必要な助言をする。 ○イラストで表現したい児童には、本文中にある言葉を根拠とすることを確認する。
10分	4 進捗状況を確認、共有する。 ・「自然災害の経験から、自然のおそろしさを実感したから、かわせみが登場したり、クラムボンが死んだりしたのかと思った」 ・「5月と12月を対比して読むと、出てくる表現やかにかの様子は5月は暗く、12月は明るい印象だった」 ・友達の発表を聞き、自分の学習を振り返ったり、軌道修正を図ったりする。	○優れた読み取りをした児童を見出し、全体にその意見を共有できるようにする。 ○それぞれの学習方法が、レポート集を書くというゴールに向かうことを確認する。 ○発表する児童の画面をテレビに映したりギガタブ上で共有するなど、視覚的に理解しやすくなるようにする。

1 0 分	5 全体で共有したことをふまえて、学習を進める。 ・色、音、オノマトペ、対比など、既習事項について確認しながら学習を進める。	○言葉の宝箱の掲示から、優れた表現の種類などを振り返るよう助言する。 ○本文の表現と自分の解釈を関連付けて書けない児童には、友達の作品をしてみるよう促す。 ◇プロジェクト型の学習を通して、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(ノート、ICT ツール等)
5 分	6 本時の学習を振り返る。 ・ループリックと学習計画をもとに本時の学習を振り返り、スプレッドシートの計画表に記入する。	○自分の成長が目に見えるよう振り返りをスプレッドシートでグラフにする。 ○スプレッドシートはそれまでの振り返りが消えることがないように、保護設定をするよう助言する。

8 参考資料

自立した学びを目指すための授業改善のポイント (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 大塚 健太郎)

主体的なICT活用による自立した学習者を育成するための方策—「自立した学習者を育成するための授業づくりの視点」を通して— (千葉市教育センター)

国語を楽しく—プロジェクト・翻作・同時異学習のすすめ (首藤 久義)

教材「やまなし」(宮沢賢治)の意義を問う (横山信幸)

9 振り返り用スプレッドシート (自分で入力し、自動的にグラフになるように設定)

